

9-2 魚のゆりかご水田を活用した多様な取組による地域活性化

せせらぎの郷（滋賀県野洲市）

- 本対策取組前は、地域において環境に関する意識が薄れており、ニゴロブナは絶滅寸前になっていた。
- 「魚のゆりかご水田プロジェクト(田んぼと琵琶湖との連続性を保つために排水路に魚道を設置し、田んぼに魚が上ってくる取組)」を実施するとともに、これを活用して地域活性化に向けて取組。
- 教育機関と連携し、出前授業や勉強会を開催。琵琶湖の環境や湖魚を守り育てる環境、環境に優しい米作りの重要性と生き物の魅力などを伝えている。また、都市農村交流の取組にも積極的でオーナー田における田植えや、生き物観察会、稲刈りなどのイベントも開催し幅広く展開。
- 魚のゆりかご水田米(商標登録済)を活用した6次化産業にも取り組む。

【地区概要】

- ・ 取組面積 46ha (田 46ha)
- ・ 資源量
開水路 5.0km、農道 4.3km
- ・ 主な構成員
農業者、自治会、憩いの会、消防団、幼稚園PTA、小学校PTA、子供会
- ・ 交付金 約4百万円 (H26)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

地域における課題



写真のような整備済水田では魚は田んぼに遡上出来ない

- 本対策取組み前は、地域の環境に関する意識が薄れており、ニゴロブナは絶滅寸前になっていた。
- 排水路の浚渫等にも取り組むことができず、暗渠排水も機能を維持することが出来なくなっていた。
- 地域において、田んぼでの様々な経験を次世代に伝えていきたいという思いがあった。
- 持続可能な取組とするため、環境と経済を両立させることが課題と考えていた。

魚のゆりかご水田プロジェクト

- 地域ぐるみの自主施工により魚道を設置。これによりニゴロブナが復活。
- 魚のゆりかご水田において、地域の子供たちと魚の観察会を実施。
- 地域活性化や、地域をつなげるシンボリックな存在に。



魚のゆりかご水田



地域ぐるみで魚道づくり

漁業中りかご水田取組地域の推移

H20年	1.5ha
H21年	3.6ha
H22年	2.3ha
H23年	5.8ha
H24年	8.3ha

教育機関との連携 都市農村交流

- 魚のゆりかご水田において、オーナー田制度を導入し、田植えや稲刈り体験を実施。
- 小学校の出前講座や他地域の高校の研修、琵琶湖とゆりかご水田ツアー等も実施。



オーナー田における田植え



出前授業、高校の研修

製品のブランド化への取組

- 環境と経済の両立を目指して、魚のゆりかご水田米を活用した6次産業化に取組。
- 東京JAマルシェでの啓発・普及等を実施。



魚のゆりかご水田米の販売



東京JAマルシェでの啓発・普及